

動植物園再生事業基本設計等業務委託(第 2 期整備その1)プロポーザルの審査結果について

1. 審査結果

・最も適した設計者:A 社

(設計者)

日本工営都市空間株式会社 九州支店 支店長 田中 賢一

・次点者:B 社

(設計者 共同企業体)

プレック研究所・日建設計共同企業体

(代表構成員)

株式会社プレック研究所 九州事務所 事務所長 山口 朋浩

(構成員)

株式会社日建設計 九州オフィス 執行役員 九州オフィス代表 廣瀬 元彦

2. 選定委員会開催日程

・第1回選定委員会

令和8年7月17日(金)

設計プロポーザルにおける審査、技術提案書評価及び求める提案課題並びに参加資格について審議を行い、審査方法など基本的な事項について決定。

・第2回選定委員会

令和8年8月6日(木)

配置する主任担当技術者の資格並びに管理技術者及び主任担当技術者の実績について、書類審査による一次審査を行い、二次審査対象者2者を選定。

・第3回選定委員会

令和8年9月4日(金)

二次審査に向け、ヒアリング項目について意見交換。

・第4回選定委員会

令和8年9月7日(月)

技術提案書に記載の業務実施方針及び評価テーマについてのヒアリング並びに業務価格による二次審査を行い、最も適した設計者を選定。

3. 一次審査(100点満点)

参加表明書を提出した2者をA社、B社として、各社の参加資格及び「資格(主任担当技術者の専門分野の技術者資格)」「技術力(各技術者の業務実績)」の評価点の算定結果について、事務局が選定委員会へ説明を行った。

選定委員会は事務局の説明内容を確認のうえ、2者を二次審査参加者として選出することを決定した。

【一次審査の評価点】

順位	1位(B社)	2位(A社)
評価点	100点	90点

4. 二次審査(120点満点)

二次審査参加者が提出した技術提案書に基づいてヒアリング(プレゼンテーション15分以内、質疑応答15分以内)を実施した。

各選定委員は、「業務の実施方針」「業務の実施体制」「業務の実施工程」「各評価テーマ」について採点した。事務局にて各選定委員の評価点の集計を行い、「資格・技術力(一次審査評価点の15%)」「業務価格」の点数を加えたものを、各社の評価点の合計とした。

選定委員会は、評価点合計の最も高いA社を最も適した設計者、次に点数の高かったB社を次点者として選定することを決定した。

【各社の評価点】

評価項目		配点	評価点			
			A社		B社	
資格・技術力 (一次審査の15%、小数点三位以下切り捨て)		15	13.5		15.0	
			平均	合計	平均	合計
技術提案	業務の実施方針	20	12.4	62	12.4	62
	業務の実施体制	20	13.6	68	12.4	62
	業務の実施工程	20	12.4	62	11.6	58
	テーマ1	20	15.0	75	13.2	66
	テーマ2	20	12.8	64	11.6	58
	技術提案小計	100	66.2	331	61.2	306
業務価格		5	2.0		3.0	
評価点合計 (技術提案は平均点)		120	81.70		79.20	
順位			1位		2位	

※技術提案の平均点は小数点第三位以下切捨て

5. 審査講評

A社(選定者)

【業務の実施方針】

- 動植物園を取り巻く環境変化を的確に捉え、目指すべき将来像が明確に提示されている点が評価された。
- 動物福祉と営業継続の両立が可能となる整備方針が示されている点が評価された。
- 個別の業務内容に対して、それぞれ実施方針が提案されている点が評価された。

【業務の実施体制】

- 各専門技術者に加えて、九州支店を含む現地対応体制、ホールディングス内でのバックアップ体制などを総合的に構築されている点が評価された。
- 協議内容を迅速に設計に反映するため、ワンストップのバックアップ体制を構築している点が評価された。

【業務の実施工程】

- 一方的な計画ではなく、飼育員などの現場関係者とのミーティングを複数回設定するなど、現場の意見を取り入れた計画手法が評価された。
- 各工程において適切な期間が確保されている点が評価された。

【テーマ1】

「動物福祉と来園者体験の両立」

- 動物が自ら選択できる多様な居場所・環境づくりに加え、温度、湿度、通風等の可視化されない環境への配慮についての提案が評価された。
- 動物の暮らしや生息環境の違いを直感的に理解できる展示を行い、来園者の学習効果と観覧満足度を高める提案が評価された。
- 飼育員の安全性を高め、日常管理の効率化を図る施設整備の提案が評価された。

【テーマ2】

「ライフサイクルコストの低減及び維持管理性の向上等」

- 初期整備費の過度なコスト増を抑え、再整備後の維持管理負担と運営コストを低減する計画が提案された点が評価された。
- 飼育担当の一日の動きに着目し、作業動線や使いやすさを重視した設備計画が評価された。
- 動物行動を引き出す展示植栽、来園者の快適性を高める観覧植栽を両立させるとともに、過度な剪定や除草を前提としない、持続可能な植栽管理計画が提示されている点が評価された。

B社(次点者)

【業務の実施方針】

- ツールを活用し、課題や計画が見える化させる提案が評価された。
- 飲食施設や休憩施設などのサービス機能の維持に対し、具体的な提案があり評価された。

【業務の実施体制】

- 動物園設計や事業マネジメントなど、各社の強みを活かしたJV組成が評価された。
- コアチームメンバーとは別に課題解決の専門チームを構築している点が評価された。

【業務の実施工程】

- 予算計画を見越し、概算工事費を早期に共有できる工程表となっている点が評価された。
- クリティカルパスが設定された工程表の提案が評価された。

【テーマ1】

「動物福祉と来園者体験の両立」

- 多様な環境を自由に選択できる展示施設や、長時間を過ごす寝室等を充実させる点が評価された。
- 生息環境の再現をベースに行動を引き出す展示が工夫されている点が評価された。
- 飼育施設の充実は評価できるが、管理や運用についての実効性の面でもより具体的な提案があると、評価がしやすかったとの意見があった。

【テーマ2】

「ライフサイクルコストの低減及び維持管理性の向上等」

- 動植物園の一体的に進めていくという意向をくみ取りつつ、コストダウンする具体的な提案が評価された。
- 将来の飼育種・用途変更に対応するフレキシブルな運用が提案された点が評価された。
- 初期コストと運用コストを中長期的な視点で縮減するため、先進的なシステムを導入する提案は評価できるが、維持管理の容易さや課題などもあわせて言及されると、よりイメージがしやすかったとの意見があった。